

KONAN UNIVERSITY

日本語会話における〈授受表現〉の使用実態とポライトネス・ストラテジー：「日本語会話データベース（上村コーパス）」に見る

著者	原田 登美
雑誌名	言語と文化
巻	11
ページ	117-138
発行年	2007-03-15
URL	http://doi.org/10.14990/00000450

—「日本語会話データベース（上村コーパス）」に見る—
**日本語会話における〈授受表現〉の使用実態と
 ポライトネス・ストラテジー**

原 田 登 美

目次

- 0. はじめに
- 1. 上村コーパスによる〈授受表現〉の調査とデータ表
- 2. 調査結果：「～ていただく」の使用例
- 3. 「依頼」の表現：「～ていただく」と「～てくださる」
- 4. 「お礼・感謝」の表現：「～ていただく」と「～てくださる」
- 5. 「提案・申し出」：「～させていただきます」
- 6. 調査結果：「お～いただく」の使用例
- 7. 調査結果：「～てくれる」の使用例
- 8. 調査結果：「～てくれる」の使用例
- 9. 調査結果：「～てあげる」の使用例
- 10. 〈授受表現〉とポライトネス・ストラテジー
- 11. 終わりに

0. はじめに

日本語会話における〈授受表現〉の使用実態を調査したいと考えたのは以下の理由による。

まず第一には、〈敬意表現〉との関わりからである。拙稿の「恩恵・利益を表す〈授受表現〉と〈敬意表現〉の関わり—特に「てくれる」を中心として文法的側面と社会言語学的側面から見る—」（原田：2006）において、「〈授受表現〉は文法的側面からは、常に話し手を中心とした方向性を語彙的に内在し、話し手から見た動作・行為の方向性を示しながら聞き手や参与者に対する話し手の主観的な関わりを示す表現である点で、尊敬語・謙譲語による待遇形式と共通している。」（原田：2006, 203）こと、また、「日本語〈授受表現〉は相手からの恩恵や相手への負担を言語の上で差異化して表すことにより、話し手が聞き手や参与者に対する「気配り」や「配慮」を示す意味と機能を持って、語用においてその機能を適用して用いられているものである」（原田：2006, 216）こと、と考察したことから、次の段階として現実の使用状況ではどのような実態となっているかを調査する必要性が生じたことである。今回は特に、Brown and Levinsonのポライトネス理論の観点から、〈授受表現〉の使用実態をど

う考えるかの考察を加えている。

さらに、〈授受表現〉の使用実態の調査を行なう第二の理由は、日本語教育との関わりからである。〈授受表現〉は現代日本語を特徴づける表現法の一つゆえに、日本語教育においては本動詞と補助動詞の用法を、「誰が誰に」の授受の方向づけと話し手の視点による適切な授受動詞の選択、ウチとソトの社会的心理的な距離の理解、そして「さしあげる」「くださる」「いただく」の敬語の使い分けといった、授受動詞の用法に重点を置いて、用法の理解と習得のために、初級の段階で繰り返し学習の機会が与えられる。また、「ていただけませんか」や「てくださいませんか」の文型によって、依頼が表現できるように練習が重ねられる。日本語教育の初級において、上記のような基礎的用法・機能を学習する〈授受表現〉の項目は、中級・上級において、その後どのような指導が必要となるのか。中・上級の〈授受表現〉の指導内容は使用状況の実態に関連し、実態からその方向が見えてくるのではないかと考えられる。

管見する限り、会話における〈授受表現〉の使用実態を調査した資料は見あたらず、『女性のことば・職場編』『男性のことば・職場編』などの調査においても、いずれも敬語の使用について調査しその中に尊敬語、謙譲語の項目で本動詞「くださる」「いただく」と補助動詞の「～ていただく」が取り上げられているだけである。今回、〈授受表現〉の全ての動詞と補助動詞を対象として調査することは、今後の参考資料として意義あるものとする。

1. 上村コーパスによる〈授受表現〉の調査とデータ表

本稿は「日本語会話データベース（上村コーパス）」を用いて、〈授受表現〉の使用実態を調査しデータ収集を行っている。「日本語会話データベース（上村コーパス）」（以下、上村コーパス）の形式は、インタビュアーによる個人インタビューである。インタビューの時間は一人がおよそ15分で、個々のインタビューは会話モードとロールプレイモードの二つから構成されている。本稿でデータとしているのは、上村コーパスの中の54名の日本語母語話者（NS）のデータであり、被験者となっているのは、大学教員、日本語教師、会社員、主婦である。データの収録は1995年7月から1996年7月にわたって行われた。（上村：1997,65）

〈授受表現〉には「あげる（やる）、もらう、くれる」の本動詞と「～てあげる（てやる）、～てもらう、～てくれる」の補助動詞の用法があり、3系統のそれぞれの敬語として「さしあげる、いただく、くださる」がある。今回の調査では、3系統の本動詞と補助動詞、それに、それぞれの敬語を使用した用例をすべてとりあげて調査を行っているが、本稿においては、特に補助動詞の利用実態を中心に記述する。

3系統全ての補助動詞の用例292の中では、使用の多い順に「～てもらう系」（230例、78.8%）、「～てくれる系」（50例、17.1%）、「～てあげる系」（12例、4.1%）となっており、「～てもらう系」の使用数は「～てくれる系」の4.6倍であり、「授受表現の補助動詞（「～ても

らう」系, 「～てくれる」系, 「～てあげる」系)の使用数の割合」は, 下記のデータ(表1)のようにまとめられる。

(表1) 授受表現の補助動詞(「～てもらう」系, 「～てくれる」系, 「～てあげる」系)の使用数の割合

補助動詞	使用数	合 計
～てもらう	9 (3.1%)	230 (78.8%)
～ていただく	221 (75.7%)	
～てくれる	24 (8.2%)	50 (17.1%)
～てくださる	26 (8.9%)	
～てやる	2 (0.7%)	12 (4.1%)
～てあげる	9 (3.1%)	
～てさしあげる	1 (0.3%)	
合計		292 (100%)

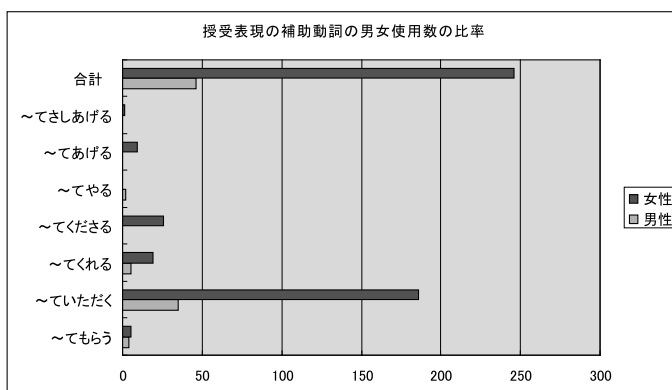
また, (表1)に示された使用数の割合を男女使用数の割合で見ると, 下記の(表2)「授受表現の補助動詞の男女使用数の比率」のようにまとめられる。

(表2) 授受表現の補助動詞の男女使用数の比率

	男 性	女 性	合 計
～てもらう	4	5	9 (3.1%)
～ていただく	35	186	221 (75.7%)
～てくれる	5	19	24 (8.2%)
～てくださる	0	26	26 (8.9%)
～てやる	2	0	2 (0.7%)
～てあげる	0	9	9 (3.1%)
～てさしあげる	0	1	1 (0.3%)
合計	46 (15.8%)	246 (84.2%)	292 (100%)

さらに上記の(表2)は次頁の〈グラフ1〉「授受表現の補助動詞の男女使用数の比率」のように示される。

〈グラフ 1〉 授受表現の補助動詞の男女使用数の比率



また下記のデータ（表 3）「授受表現の本動詞の使用数の割合と男女使用数の比較」に見られるように、本動詞においては全41の用例において、「もらう系」（35例，85.4%）, 「あげる系」（4例，9.8%）, 「くれる系」（2例，4.8%）の使用順となり、「もらう系」の使用が圧倒的に多いことがわかる。

（表 3） 授受表現の本動詞の使用数の割合と男女使用数の比較

	男 性	女 性	合 計
もらう	2	8	10 (24.4%)
いただく	9	16	25 (61.0%)
小 計	11	24	35
くれる	0	1	1 (2.4%)
くださる	0	1	1 (2.4%)
小 計	0	2	2
やる	0	0	0 (0%)
あげる	0	0	0 (0%)
さしあげる	0	4	4 (9.8%)
小 計	0	4	4
合 計	11	30	(100%) 41

以下において、本稿では、補助動詞を中心に「~てもらう系」「~てくれる系」「~てあげる系」の順で、上村コーパスにおける〈授受表現〉の使用実態を見ていくこととする。

2. 調査結果「~ていただく」の使用例

話し言葉のコーパスの一つに、『女性のことば・職場編』『男性のことば・職場編』の会話

データがある。『女性のことば・職場編』のデータによると、職場で〈授受表現〉が女性にどのように使用されているかについて、「補助動詞「～てもらう」の謙譲語としての「～ていただく」は80例と非常に多く、1例を除いて79例がフォーマルな場面で使われている。」(P.100)という報告が見られる。また、『女性のことば・職場編』では、続けて「全体の例数では、「いただく」は「もらう」の1.8倍である。すでに見た尊敬語・謙譲語で各語を敬語とハダカ形と比べたとき、ハダカ形のものの方がどれも多くあったが、「～ていただく」で初めて敬語形の方が多いものが現われたのである。きわめて使いやすい敬語ということであろう。」(P.101)という記述がある。『男性のことば・職場編』においては、「いただく」の項目で、「補助動詞としての使用が非常に多く、「～ていただく」のもの63例(男性60例、女性3例)、その中には「させていただく」が多く、12例を数えている。また、「お～いただく」のものが8例(男性6例、女性2例)ある。」(P.71)と報告されている。ちなみに『女性のことば・職場編』と『男性のことば・職場編』のいずれにおいても、〈授受表現〉の中の「補助動詞「～てもらう」の謙譲語としての「～ていただく」を職場の敬語として取り上げており、〈授受表現〉全体に焦点を置いた調査ではない。

上村コーパスにおいては、補助動詞「～てもらう」の謙譲語としての「～ていただく」は全部で221例であり、この中には下記の①のような引用の「～ていただく」を初めとし、②の「～ていただいて」、③の「～ていただきたい」、④の「～ていただく」、⑤の可能形「～ていただける」⑥の「させていただく」などの文型の用例が含まれている。

- ①それはもう、そちらで。手当てをしていただくということで。 K.N^{注1)}
- ②あのプラスチックなんかは、袋に入れていただいて M.A
- ③できるだけいい条件で働けるように交渉していただきたい。 K.N
- ④あの一アルバイトを探して頂こうと思うんですけど A.M
- ⑤ちょっと、そうして頂けると、ありがたいんですけど T.S
- ⑥お宅のほうに、うかがわせていただきますので、 T.S

また、上記の用例の他に⑦の「～ていただいた方がいい」、⑧の「～て頂くということになる」のような用例が見られる。

- ⑦オリンピックのほうで取り締まっていたほうがいいと思います。 K.N
- ⑧帰ってからまた食べて頂くということになります。 N.K

以上の①～⑧の使用例の中でも、話し手が「～ていただきたい」によって、教えを請うとか頼みごとをするなどの依頼の場面で用いられるのが60例(補助動詞「～ていただく」の全使用例数221の中の27.1%)あり、数の多いのが目立つ。例えば上村コーパスの中では依頼表現「～ていただきたい」は下記⑨⑩のように用いられている。

- ⑨こんなことがあの一問題だっていうふうなこと、もしあったら教えていただきたいんですが。 M.A
- ⑩ロールプレーを1つしていただきたいんですけども。 T.A

そもそも依頼とは仁田 (1991, 276) や山田 (2004, 232) で述べられているように、「依頼は、話し手のためになる行為を聞き手に促すことと、その聞き手のなす行為によって話し手が恩恵を受けること」から成り立っている。したがって、話し手が恩恵を授かることを希望する「～ていただきたい」という表現形式によって、Brown and Levinsonのポライトネス理論が述べる、「聞き手が基本的に持つ自己に立ち入られたくないという欲求」であるネガティブ・フェイスに話し手が無理やりに侵入することなく、同時に、話し手が恩恵を欲する形で聞き手にへりくだって恩恵を求めることによって、より聞き手に心理的に近づきたいというポジティブ・フェイスを示したポライトネスの一つのストラテジーとなっている。

また、上村コーパスでは、依頼の場面において、次のように「～ていただく」の可能形である「～ていただける」が用いられている例も多く見受けられる。

⑪アルバイトの条件としては一こちらなんですけれども、これ全部クリアしていただけ、
ますでしょうか。 M.O

⑫考えておいていただけないでしょうか。 M.O

⑬平日の分より若干それも上乘せしていただければ、と思うんですけれど。 M.O

上記⑪は、「～でしょうか」によって、断定的な肯定形の「～ていただけますか」よりはさらに間接的な表現となっている。そして⑫では肯定形ではなく否定形「～ていただけないでしょうか」を用いることによって選択的となり、⑬ではさらに非現実的な仮定形である「～ていただければ」を用いることによって、⑪～⑬は段階的に、間接的で非現実的な表現となって丁寧さの度合いを増している。

上記の⑪～⑬の「～ていただける」は、いずれも「～てくれる」の敬語である「～てくださる」に置換えが可能である。しかしながら、上村コーパスにおいては依頼表現が「～てくださる」によって表されている例はなく、「～てくださる」の中立形である「くれる」を用いた次の⑭の1例のみが「～てくださる」系の依頼表現として見受けられる。

⑭私のオフィスに、あの一研究室に来てくれますか。 M.I

その他、「お～くださいませ」による依頼表現が次の⑮のように1例あるが、⑮では依頼の押し付けがましさを「ませ」の付加によって緩和している。

⑮発信音の後に、メッセージをお残し下さいませ。 I.T

上記⑮以外に「～て下さい」を用いた依頼表現が2例見られるが、2例ともに下記の⑯のような引用文での間接的な用例である。

⑯あの留守番電話に録音して下さいということで、 I.T

⑰私達も入れて下さいってゆって、私達が入っていくんですよ。 K.O

3. 「依頼」の表現：「～ていただく」と「～てくださる」

以上の調査結果により、依頼表現については、「ロールプレイをして頂きたいんですが」

のような願望的な表現を含めると、「いただく」系の85例に対して、「くれる」系は1例であり、両者の比率は、(表4)の「**依頼**」の表現：「～ていただく」と「～てくださる」の使用比率」のように示される。既述のように、上村コーパスには「～てくださる」の使用例はなく、「～てくれる」の使用例が1例あるのみである。

(表4) 「**依頼**」の表現：「～ていただく」と「～てくださる (～てくれる)」の使用比率

「依頼」の表現	
～ていただく	85 (98.8%)
～てくれる	1 (1.2%)
合 計	86 (100%)

上記の結果により、圧倒的に「～ていただく」を用いた例が多いことが注目される。これは、現代日本語では、恩恵を得られるかどうかという話し手の問いかけによって、依頼をすることが慣用的となっていることを示している。それと同時に、「～てもらう／いただく」を「～てくれる」との比較において述べるなら、前者が「意志性動詞」であるのに対し後者は無意志性動詞である。すなわち、「～てもらう／いただく」は「もらおう」「もらうつもり」「もらいたい」「もらわせる」などの意志を伴う語形が用いられる動詞であるのに対して、「～てくれる／くださる」は聞き手への働きかけがない無意志性動詞であり、意志・志向形である「くれよう」や願望を表す「くれたい」、使役「くれさせる」などの語形では用いられない動詞で両者は意志性の有無において決定的な違いがある。先行研究において奥津・徐(1982, 98), 山田(2004)が指摘するように、「～てもらう」は意志的な働きかけを伴う場合があり、「テモラウ受益文の働きかけのあり方は、事態に対して作用を及ぼす意図と実際の(積極的)作用という観点から、少なくとも、依頼的、許容的、単純受影的と仮称できる3種類が認められることになる」(山田：2004, 121)と述べられて、依頼的な「～てもらう／いただく」には働きかけが認められる。したがって、「テモラウ受益文のうち依頼的もしくは許容的な用法の場合にはテクレル受益文と置換不可能であるが、単純受影的な場合には(待遇の意味あいの差を考慮に入れなければ)基本的に置換え可能であると言える」(山田：2004, 133)と考えられる。したがって、上記の⑭に示されるような「～てくれる／くださる」系の依頼文と、上記⑨⑩に見られる「～てもらう／いただく」系の依頼文では、「～てくれる／くださる」系は働きかけが弱く、聞き手に行為を促すというより、依頼についての聞き手の判断を問う意味になる。

上村コーパスを見る限り、依頼については、「てもらう」系の「いただく」が85例、「てくれる」系が1例である。このように「てもらう」系の使用数が圧倒的に多いという実態は、第一には、話し手が聞き手に依頼を能動的に働きかけ、その結果として依頼が成立すること、そして第二には、依頼は結果的には相手からの恩恵を得られることであること、また第三に

は、話し手の働きかけのない場合より働きかけのある方が依頼表現として妥当であると認められるところから、この表現が広範に通用しているものだと考えられる。

依頼と〈授受表現〉の関係については、山田が「日本語の依頼表現は、恩恵付与の表現であるベネファクティブを含むことが圧倒的に多い。一方で、仁田（1991：376）に定義されるように、依頼は「話し手のために」なる行為を聞き手に促すものであり、ここにあるベネファクティブが用いられる基本的な理由を見ることができる。」（山田：2004，232）と指摘するとおり、依頼が話し手の受益と根源的に結びついているものであることが理解される。

4. 「お礼・感謝」の表現：「～ていただく」と「～てくださる」

次に上村コーパスにおいて、「～ていただく」は次の⑮⑯のように、「お礼・感謝」の表現に用いられる例が多く見受けられる。

⑮来ていただいて、ありがとうございました。 K.N

⑯遅くても9時半ごろに帰していただけるとありがたいんですけども。 M.A

「～ていただく」がお礼や感謝の表現に用いられることは、恩恵や好意が話し手に付与されることに基づいた、「～ていただく」の本来の意味・用法である。したがって、同時に、恩恵や好意が話し手に授与された「～てくださる」の表現方法によっても、お礼や感謝を示す⑳㉑のような例の数が多いことも肯ける。

㉒アルバイト、応募してくださってありがとうございます。 K.N

㉓わざわざ、来て下さってどうもありがとうございました。 M.K

「お礼・感謝」の表現において、上村コーパスでの「～ていただく」と「～てくださる」の使用例数を比較すると、(表5)「「お礼・感謝」表現：「～ていただく」と「～てくださる」の使用比率」のようになる。

(表5) 「お礼・感謝」の表現：「～ていただく」と「～てくださる」の使用比率

「お礼・感謝」の表現	男 性	女 性	合 計
～ていただく	1	10	11 (68.7%)
～てくださる	0	5	5 (31.3%)
合 計	1	15	16 (100%)

(表5)に示されるように、「～ていただく」が68.7%の使用であるのに対し、「～てくださる」は31.3%であり、「～ていただく」の使用が「～てくださる」の二倍強となっている。また、「～ていただく」の男女の使用比率は男性の1例(9.1%)に対して女性が10例(90.9%)であり、「～てくださる」の男女の使用比率は男性が0%であるのに対し、女性が100%となっており、「お礼・感謝」の表現が圧倒的に女性によるものであることが窺える。

三宅(2004)は感謝と詫びの発話には心理的接点があることを指摘し、両者は利益と負担、

借りと恩の概念と関連していると述べている。そして両者の接点の例証として、感謝の表現「ありがとうございます」に対する聞き手の応答「いいえ、どういたしまして」と、詫びの発言「どうも申し訳ありません」に対する聞き手の応答「いいえ、どういたしまして」が同じであることを挙げ、またCoulmas (1981) の主張から、「感謝」と「詫び」の言語表現の裏にある心理的つながりを「借り」の概念 (indebtedness) であるとして、感謝の感覚の基本としての「謝意」と詫びの感覚の基本としての「残念さ」を以下の四つの場合に分けて説明している。

- I. 相手に対して謝意があるが「借り」がない場合には、「ありがとうございます」の発言となる。
- II. 相手に対して謝意があり「借り」がある場合には、「ありがとうございます」「すみません」の2つの発言があり得る。
- III. 相手に対して残念さがあり「借り」がある場合には「すみません」の発言となる。
- IV. 相手に対して残念さがあるが「借り」がない場合には「たいへんでしたね」のような発言となる。

上村コーパスにおける〈授受表現〉の使用例の中で見ると、上記 I に該当する例としては下記の②が挙げられる。

② アルバイト、応募してくださってありがとうございます。

K.N

②には、話し手には聞き手が自発的に応募してくれたことへの謝意があるが、話し手から応募するように依頼したわけではなく、そのために「借り」の意識はない。したがって、下記②の文は成立しない。

②* アルバイト、応募してくださってすみません。

②では「すみません」は用いられることはない。

また、下記②'の文のように、話し手が直接に受ける恩恵を表す「私に」や「私のために」を②に挿入することはできない。

②' (私のために) 応募してくださってありがとうございます。

この意味で、②は話し手が直接に恩恵を受ける〈直接受益文〉ではない。②は話し手を含む状況に間接的に恩恵をもたらす〈間接受益文〉であり、②の謝意は状況に対してもたらされた恩恵に対する話し手の間接的な謝意である。

ここで、先述の①⑨の使用例を再度、取り上げるが、

① 遅くても 9 時半ごろに帰していただけるとありがたいんですけど。

M.A

「帰していただけるとありがたいんですけど。」の「ありがたいんですけど」を「すみません」に置き換えることはできない。なぜ置換えができないかは次の②③と同様の理由に因る。

②③ いつもはほんとにいいんですけど、ごめんなさい、今—だけ、ちょっと、そうして頂けると、ありがたいんですけど。

T.S

⑭と㉓に見られるように、前件が「～と」「～ば」「～たら」によって後件に結びつく条件文の場合、後件は未成立・未実現の事態を示している。未成立・未実現の事態に対して、成立した場合には感謝するという表現は取りえるが、成立しないことについて「借り」の気持ちは話し手には生じない。話し手が聞き手に負担や不利益を実際にまだ負わせていない場合には「すみません」が使えないのであり、「借り」は既に成立した事態について生じえるものである。未だ行為が行われていない場合や仮定的な事態については詫びを言わないと考えられる。

「謝意」と「残念さ」について上記Ⅱに該当する例としては、下記の㉔、㉕がある。

㉔来ていただいて、ありがとうございました。 K.N

㉕わざわざ、来て下さってどうもありがとうございました。 M.K

㉔と㉕では、聞き手の「来た」という行為が話し手にとって、直接受益になったという認知によって、㉔では「来ていただく」、㉕では、「来てくださる」という表現によって、話し手は受惠を「借り」と「謝意」の両方の意識で表現している。したがって㉔と㉕では「ありがとうございました」と共に「すみませんでした」の表現によっても置き換えられる。Coulmas (1981) の「Ⅲ. 相手に対して残念さがあり「借り」がある場合には「すみません」の発言となる。」と「Ⅳ. 相手に対して残念さがあるが「借り」がない場合には「たいへんでしたね」のような発言となる。」に該当する〈授受表現〉は上村コーパスには見あたらなかった。

5. 「提案・申し出」：「～させていただく」

上村コーパスにおいては、「提案・申し出」の場面で、使役形を伴う〈授受表現〉「～させていただく」の例が39例と数多く見受けられた。次の㉖、㉗が用例として挙げられる。

㉖どれか一日、休ませて頂けたらと思うんですけど。 T.A

㉗夜分にでも、お電話させていただきます。 M.F

「～させていただく」の使用例は上村コーパスにおいて全体で39例あり、(表6)「「～させていただく」の男女使用数の比率」に見られるように、男性の使用例が14例(35.9%)、女性が25例(64.1%)である。

(表6) 「～させていただく」の男女使用数の比率

～させていただく	
男 性	14 (35.9%)
女 性	25 (64.1%)
合 計	39 (100%)

「～させていただく」はすべての動詞につけることが可能だということもあり、最近では聞き手に対して特別の許可が不要な「開会の辞を述べさせていただきます」「それでは説明

させていただきます」のような挨拶や、「かぜで欠勤しておりましたが、明日から行かせていただきます」のような本来は自発的で相手の許可など不要な場合にも用いられているのが現状である。井上（2004）では、「～ていただく」という丁寧な言い方の前身は「～もらう」です。（略）「～てもらいます」は関西人が使うという観察がありました。「もらう」という受惠表現で相手への気持ちを表現して、本来の敬語の代わりに使うようになったのです。ところが今は「～させてもらいます」では失礼な感じがします。それを避けるために、これまた「敬意低減」の一種として、敬語を使った別の表現「～せていただく」が登場したのです。」（P.46～47）と述べられるように、上村コーパスにおいても、「～させてもらう」は、「～させてもらう」と「～せていただく」の合計使用例数39のうち2例（5.1%）のみであり、男女を問わず「～せていただく」の使用例が圧倒的に多いことが認められる。しかも上記の（表6）からわかるように、男性より女性に使用例数が多いのが目立っている。使用の実態から、より丁寧に敬意を表すために、「～させてもらう」から「～せていただく」へと移行していることが推測される。

上村コーパスの「～させてもらう／いただく」の使用例の中には、動詞「やる」と「する」がそれぞれ「やらして頂きたい」「勉強さして頂きたい」のような使役の連用形となって、その連用形で「いただく」に接続させているものが3例あった。

下記の⑳と㉑は、聞き手からの受惠を期待して相手に許可を求める本来の用法としての「～せていただく」の用例である。

㉑四日のうちのどれか一日、休ませて頂けたらと思うんですけど。 T.A

㉑あ、今尾さんですか。はい、じゃ今尾さんと呼ばせていただきます。 Y.I

「～せていただく」の用例の中には、相手の許可がなくても自らの意志で選択が可能な状況の中で、下記の㉒～㉔のように、使役の関係による許可によって、聞き手からの受惠を促すという過剰な表現も見受けられた。

㉒いっせいに（保育園の申請の）受付の期間がありまして、で、その、その状況で常勤のかたから先にお入れになって、パートをまあもうちょっとあとの方、もし空気があったらということでみんな待たせていただいているんです。 K.J

㉓土、日はちょっと、えー、あのご遠慮さして頂きたいんですけれども。 S.K

㉔また日本へ、ほんのしばらくですけど、帰ってまいりまして、でその時に、あのこちらの、ICUの方でも、ちょっと、日本語のクラスをお手伝いさして頂きまして、それから今度はあの、ロンドンの方に T.N

㉒～㉔は相手の利害と関係なく話し手が自分の意志で行う行為であることから、㉒は「みんな待っているんです」、㉓は「遠慮したいんです」、㉔は「お手伝いいたしまして」で十分に適切な表現となる例である。

「～させてもらう／いただく」に関連して謙譲語に言及すると、話し手のへりくだった謙譲の意を表した表現には、「お～する」の謙譲語がある。謙譲語には使用の制限があり、話

し手の行為の「受け手」が存在することと、「お荷物をお持ちします」や「駅までお送りします」のように話し手が受け手に何らかの恩恵を与えとか、「傘をお返しします」や「お借りした本」などのように、話し手が受け手に借りを返す気持ちが存在することが前提である。したがって、「(私が) お座ります・お歩きます・お買いします」のような謙譲表現は、通常では受け手が恩恵や借りがある状況は考えられず謙譲語とは成りえないものである。その点、「～させていただく」は「座らせていただく」「歩かせていただく」「買わせていただく」など、「せる／させる」によって相手の許可を得て話し手の行為を成立させ、しかも「～ていただく」によって相手からの恩恵や借りを受けて話し手が聞き手に対して好意的な表現をとったものとなる。受惠による謝意や借りの気持ちから、相手に対する敬意が生じる丁寧表現となる点で、きわめて便利な表現形式である。井上(2004)では、「～させていただく」という表現の昨今の増加について、「実は敬語の発想の根幹に関わります。従来の敬語は、相手や話題の人物を高め、そして自分を低めることで、目上・目下、地位の上下と結びつく設定でした。ところが新しい「～せていただく」は、「いただく」を使って、平等な相手との恩恵のやりとり関係の形をとります。つまり場面やとらえ方が変わればお互いに立場が交代しうるような形をとっています。しかも「もらう」でなく「いただく」と言うことによって、形の上で丁寧に扱っています。」(井上：2000, 50)と述べ、現代の敬語が上下敬語から聞き手との親疎関係による左右敬語の時代へと移り、「聞き手への配慮が話し手との個人的関係として優先し、関係者や、第三人者への配慮は表に出てきません。「～せていただく」は、その場限りの一時的な恩恵のやりとり関係を反映します。その場その場の心理関係の調節に使われ、同じ相手でも場合に依じて使い分けます。」(井上：2000, 51)と述べて、「～させていただく」を現代敬語の特徴である左右敬語、聞き手敬語にふさわしい表現であると位置づけている。また、この背景には目上・目下の意識による敬語使用が後退し、代わりに実力主義による社会を背景とした敬語使用の心理へと変化してきたことがあるとして、上下敬語のかわりに登場した敬語使用の心理として、相手への負い目の関係があること、恩恵関係・受惠を前面に出すことで従来の敬語の使用を避けてきていることを述べている(参照：井上, 2000, 50-52)。恩恵関係が従来の敬語に代わるものとして使用されてきているのである。

6. 調査結果：「お～いただく」の使用例

上村コーパスにおいて、敬語的表現の一つとして「～ていただく」と共に使用されているのが次の③③～③⑤に見られる「お～いただく」という表現形式である。

③③じゃ、これをちょっとお読み頂きまして、わたくしが友達、ま、友達になりまして、T.O

③④映画のタイトル、時間等はちょっと、お考え頂いて、で、わたくしが、T.O

③⑤今日はお忙しい所をわざわざお出でいただきまして。はい、どうもありがとうございます

した。

I.T

「お～いただく」の使用例は下記の(表7)「**「お～いただく」の男女使用数の比率**」に見られるように全部で11例であり、11例全部が女性によるものである。

(表7)「お～いただく」の男女使用数の比率

お～いただく	
男 性	0 (0%)
女 性	11 (100%)
合 計	11 (100%)

上記の11例の中には、次の③⑥、③⑦に見られるような「ご～いただく」の2例が含まれている。

③⑥図書館側としましては、あの一、そこにご覧いただいているような条件なんですけど。

Y. I

③⑦これをご理解いただけましたらいつでも始めていただきたいんですが。

N.Y

「お～いただく」と「ご～いただく」という表現は敬語の一形式に位置づけられ、その「敬語的性質」は動作の主体を高くすることに加えて動作の主体から恩恵を受けるという表現形式であることに由る。類似の表現に「お～くださる」「ご～くださる」という動作の主体を高めかつ動作の主体が恩恵を与えるという形式があるが、この形式は上村コーパスにおいては、次の③⑧の女性による使用例が1つ見られるのみである。

③⑧今日はあのわざわざおいでくださってどうもありがとうございました。

M.N

上記③⑧の「おいで」はもともとが「出づ」の連用形と考えられ、それが「くださる」と共に「おいでくださる」となり現代語では連語として慣用的に使用されている。また、「おいで」は「いただく」と共に上村コーパスにおいて次の③⑨の例に見られるように使用されている。

③⑨あの、滝本さんは、どちらから、今日は、おいでいただいたんでしょうか。

I.T

③⑧は動作の主体に視点があり、③⑨は恩恵の受け手である話し手に視点がある。

「わざわざおいでくださってありがとうございました。」と「わざわざおいでいただいてありがとうございました」を比べたとき、日本語母語話者は「くださる」の方により丁寧さを感じると思われる。滝浦(2005)は、久野が『談話の文法』において、「文中の名詞句の指示対象 x に対する話し手の自己同一視化を共感(Empathy)と呼び、その度合い、即ち共感度を E(x) で表す。共感度は、値 0 (客観描写) から値 1 (完全な同一視化) 間での連続体である。」(久野1978, 134) という共感度の不等式に倣って、文全体のポライトネス的意味と含みがどのようにつくられるかについて具体的な例を挙げて考察している。滝浦(2005)によれば、「[共感度]すなわち話し手による「自己同一視化」の強さとは、話し手からの“心理的近さ”のことと読み替えることができる」(P.235) のであり、今、「お～くださる」と「お～いただく」の関連に限定して言及するなら、「指示対象 x に対する話し手の共感度 E(x)

は、話し手の x に対する共感度が y に対するよりも大きい時、すなわち $E(x) > E(y)$ の場合、話し手は y を遠くに置く〔敬語使用〕(y を“ソト”待遇する)となる」(滝浦：2005, 236)と説明される。したがって、恩恵の受け手である話者に視点がある「お～いただく」>動作の主体に視点がある「お～くださる」となり、「お～くださる」は「お～いただく」より“ソト”待遇となって敬語的度合いが高くなるのである。一方では、「お～いただく」は「お～くださる」より話し手から心理的に近い表現だと言える。この結果から敷衍して考えると、上村コーパスに見られる〈授受表現〉の実態調査において、「～ていただく」と「～てくださる」が恩恵の授与の方向から見ればどちらも「“ソト”から“ウチ”」の方向でありながら、全使用例数の合計292の中で、「～ていただく」の使用数が221(75.7%)に対して、「～てくださる」は26(8.9%)である。その数字からわかるように、「～ていただく」が圧倒的に多い。その理由は、「共感度」すなわち話し手による「自己同一視化」の強さであると推察される。

7. 調査結果：「～てくれる」の使用例

「～ていただく」と「～てくださる」は同じ文脈で用いられる場合が多いが、上村コーパスにおいて、「～ていただく」は221例あるのに対し、「～てくださる」は26例のみであり、「～ていただく」の方が圧倒的に多い。しかし両者の中立形である「～てもらう」と「～てくれる」を比べた場合、前者が9例であるのに対し後者は24例であり、中立形では「～てくれる」の使用例が「～てもらう」の3倍弱の使用となっている。このような使用状況は、「～てもらう」が従来からの多用により「敬意低減」から「～ていただく」に移行してきていること、その一方で「～てくれる」は本来の意味で用いられていることがその背景にあると考えられる。

上村コーパスにおいても、「～てくれる」は、話し手や聞き手が状況説明をする場面の中に登場する人々について用いられていることが多く、下記の④⑩～④⑫のような例が挙げられる。

④⑩ あれあの、確率でどの程度の人に声をかけたら、あのーどの程度の人が、あのー飲んでくれますか? Y.I

④⑪ A：あの、屋内の体操競技を見るのがすごく好きなんです。

B：ああ。なるほどねえ。うん。どういう所がいいですか。体操の。

A：あっ、やっぱり私には絶対できないことを軽々とやってくれるってするので、気持ちいいです。 T.A

④⑫ そういうー、ことをこう個人的に色々経験してると、村上龍な、ようなこう、やりたいことをやるほうが正しいんだって言ってくれるほうが、共感を持つっていうんでしょうか。 I.O

「～てくれる」には「友人が私に教えてくれた」のように話し手である私が動詞の与格目

的語の項となって、話し手が直接に恩恵を受ける〈直接テクレル受益文〉と話し手が直接には動詞の項とはならない〈間接テクレル受益文〉がある（山田：2004, 30）。上記の④①～④②の例では、それぞれの文の述語「飲んで／やって／言ってくれる」の与格目的語は話し手本人ではなく一般的な人々であり、いずれも〈間接テクレル受益文〉の例である。〈間接テクレル受益文〉においては、話し手は「～てくれる」によって、状況や事態から間接的な受益や恩恵の影響を受けていると捉えられるが、話し手自身は与格目的語になっていない。ただし、④②では、述語「言ってくれる」の与格は話し手を含むとも解され、受益者は正しくは「話し手を含む一般の人々」である。

上村コーパスにおいては、〈直接テクレル受益文〉の例が〈テクレル受益文〉24例の中で7例あり、〈間接テクレル受益文〉の例が17例ある。その割合は、下記の（表8）「〈間接テクレル受益文〉と〈間接テクレル受益文〉の使用数の比率」のように示される。

（表8）〈間接テクレル受益文〉と〈間接テクレル受益文〉の使用数の比率

～てくれる	
直接受益の場合	7 (29.2%)
間接受益の場合	17 (70.8%)
合 計	24 (100%)

上村コーパスにおける〈直接テクレル受益文〉の使用例を見ると、いずれも聞き手が話し手に恩恵や利益を与えるという談話者間の直接付与ではなく、下記④③、④④のように第三者が話し手に授与した恩恵である。

④③ A：あのー2週間一後にはあのー、ロンドンのほうへ行こう、ははは。（略）

B：そうでらっしゃいますか。

A：ええ。この湿気から逃れられるのが嬉しくて、（略）まあそれと、あのーイギリス人の友達にも、はい、あのーえー来い来いって言ってくれるものですから。 T.N

④④（略）わたくしがまた向こう行ったとき、皆さんがほんとに、あのー、両手を広げて迎え入れてくれたものですから、 F.H

したがって、「～てくれる」はインタビューの中での話し手と聞き手の恩恵授受のやりとりを表すために使用されたものではない。〈直接テクレル受益文〉の7例の用例中の全ての例が話し手が第三人者から授与された恩恵・利益である。

8. 調査結果：「～てくださる」の使用例

一方、「～てくれる」の敬語である「～てくださる」は下記の④⑤、④⑥のように、話し手と聞き手の会話の中で、聞き手を行為の主体として、聞き手に対して直接に使用されている。「～

てくださる」の全使用例数26の中で、聞き手が述語の主語となり、聞き手に対して用いられたものが12例あり、その用例としては次の④⑤、④⑥のようなものが挙げられる。

④⑤ えっと今日は、あのアルバイトの面接に来てくださったんですね。 M.A

④⑥ A：これはもうなにか、こうー、ストーリーを作っているんですか？

B：ええ、ストーリー作ってくださって結構です。 T.S

他方、④⑦、④⑧のように、第3者を述語の主体とする敬語としての用例は、「～てくださる」全26例中に14例が見受けられた。

④⑦ 例えば、歌舞伎ですとかお茶ですとか、そういう事の他に、日本人の考え方ですとか、(略)

あの少し、ずつあの一、お話すると非常に喜んで下さいますね。 I.T

④⑧ お部屋があるのでゴミのその捨て場っていうのがあって出してくださるんですよ。あの係りのかたが。 C.J

「～てくださる」の上村コーパスにおける全使用例数26を、上記の④⑤と④⑥のような「聞き手が「～てくださる」の主語の場合」と、④⑦と④⑧のような「第三者が「～てくださる」の主語の場合」に分けてまとめると、以下の(表9)「「～てくださる」の主語の比較比率」のように示される。また、上村コーパスにおける「～てくださる」の使用は全使用例数26が女性によるものである。

(表9) 「～てくださる」の主語の比較比率と男女の使用の割合

～てくださる	男 性	女 性	合 計
聞き手が「～てくださる」の主語の場合	0	12	12 (46%)
第三者が「～てくださる」の主語の場合	0	14	14 (54%)
合 計	0	26	26 (100%)

上記の(表9)からは、「～てくださる」については第三者が「～てくださる」の主語になる場合の方が幾分多いものの、「～てくれる」の使用例と比べると、聞き手が「～てくださる」の主語になる場合が多いことも注目される。聞き手が「～てくださる」の主語になる場合が多い点において、「～てくださる」と「～てくれる」の使用状況が異なっていることは留意を要するものである。大江三郎は本動詞「クレル」について、「恩恵を与える人は常に話し手以外の人であり、恩恵を受け取る人は常に話し手である。また「クレル」の意志の所在は動作の主語である。」(1975: 31ff)と述べており、大江のこの説明は補助動詞の「～てくれる」「～てくださる」にも当てはまる。

「～てくださる」の主語について、上村コーパスの使用状況から見ると、「〈聞き手〉が〈話し手〉に～てくださる」という形式の使用が46%である。これは、上村コーパスがインタビュー形式であることから、話し手と聞き手のやり取りの中で、聞き手を主語とした動作により、話し手が恩恵を受けたことに敬意を表して表現するものとなり、このように多い数字を

示す結果となったことが肯ける。それにしても、話し手が聞き手に状況を説明する中で、第三者に対し「～てくださる」を使用した例が54%もあるのは何と高い数字であることか。これらの使用例は話し手が第三者に対して敬意や丁寧さを表すための使用であり、「～てくださる」の使用例が全て女性によるものであるところも考慮すると、女性の丁寧表現は男性の使用意識とかなりかけ離れて、いかに丁寧に表現するかを常に強く心がけているものと考えられるのである。

9. 調査結果：「～てあげる」の使用例

既述のように、「上村コーパス」においては、「～てあげる」系の使用数は〈授受表現〉補助動詞の全体数292例中の12例であり、ほんの4.1%を占めるに過ぎない。「～てあげる」系については、留学生の「先生に私の家族の写真を見せてさしあげます」や「(あなたに) 一つ電話をしてあげたらいいですか」の誤用に見られるように、「～てあげる」を恩恵・利益の授与とのみ理解していると、語用の段階で、主体になる人物の好意の押し付けや恩着せがましさを与える表現となってしまう。『敬語教育の基本問題 (下)』では、「～てやる・～てあげる・～てさしあげる」の基本的意味と副次的意味をそれぞれ以下の①と②のように説明している(国立国語研究所:1992, 121-122)。「～てあげる系」の①基本的意味は、「自己(主語)の行為が他者の何らかの能力不足を補う。この能力は物理的なものでも心理的なものでもかまわない。」として、次のa～cの例を挙げている。

a. あいつ、寂しがっているから、電話かけてやろう。

b. 忙しければ、ぼくが買ってきてあげるよ。

c. お急ぎでしたら、送ってさしあげましょうか。

次に、副次的意味として、②副次的意味は「自己(主語)の意志・決意を強く表明する。相手に〈不利益〉を与えることを含む。として、次のd～fの例を挙げている。

d. 見てろ、こんどこそ、合格してやる!

e. あんなやつ、ぶんなぐってやる!

f. 自殺してやる!

「上村コーパス」における「～てあげる」の使用例には、以下の④⑨～⑤⑪のような例がある。

④⑨受験生と一緒に、大学のことを話してあげればいい、だけーなので、とても割りがいい

N.O

⑤⑩あと今、学校ってあの、学業だけじゃなくてあの精神的に子供の分を背負ってあげる事が非常に重くってそれがちょっとあの背負いきれないところがありましてね。 K.J

⑤⑪日本語がよく分からない方は、あの一、書いてあげて、これをお隣にお持ちなさいと。

そうしてあげるんです。

F.H

④⑨～⑤⑪の動詞「話す」「書く」「背負う」「そうする」はいずれも意志動詞であり制御可能で

あり、基本的には未実現の事態である。例えば、肯定形過去の形で「話してあげた」「書いてあげた」とすると押し付けがましさが出てきて不自然さが増すが、上記の例のような未実現の仮定的な事態について、補助あるいは援助によって事態が遂行されるという「～てあげる」の使用であれば、許容度は増し自然な表現となる。以上を総合的に考えると「～てあげる」の基本的な意味は、「自己（主語）の行為を行うことが、他者の能力や事態の不足を補って役に立ち、貢献する。この事態は物理的なものでも心理的なものでもかまわない。」ということが言える。

また、「やる」と「あげる」の内のいずれを使用するかについては、時代差、年齢差、性別などにより意識差があると考えられるが、「上村コーパス」における「～てやる」の使用は以下の2例であり、どちらも男性による使用である。

⑤神戸にも自然災害っていうのがあって、そこに結構、ね、あの一助けてやろうと、ただ、
こう、部外者としての目、うー冷たい目で、じゃなくてね、 Y.J

⑤やはり、本当に、この一、教育のできる、うー、優秀な教員はどういう人物かと、そういうのが見極められる、う、テストを考えてやっていただければありがたいんですけど。

K.S

「あげる」の使用意識については、若い人ほど「赤ちゃんにミルクをあげる」「猫にえさをあげる」などのように、本来の「やる」「あげる」の使い分けが崩れ、「やる」の代わりに「あげる」を使う人が圧倒的に多くなっている。「あげる」の使い分けについては、「美化語からさらに普通語に近くなっており、謙譲語という丁寧意識はもはやないと言っていいだろう。」(国立国語研究所：1992, 128)の記述のように理解される。

さらに「あげる」と「さしあげる」の使用については、「上村コーパス」において、本動詞の「さし上げる」の使用が4例あり、4例ともに女性が「電話・品物・食べ物・現物をさしあげます」のようにそれぞれ友人、夫の上司、面接の応募者を授与者として使用している。

また、「上村コーパス」においては補助動詞「～てあげる」と「～てさしあげる」の使用例は合わせて9例あり、いずれも女性の使用である。男性の「～てやる」の使用対女性の「～てあげる」と「～てさしあげる」の使用のように、両者には男女の使い分けが見られる。

10. 〈授受表現〉とポライトネス・ストラテジー

日本語の〈授受表現〉をBrown and Levinsonのポライトネス理論との関連で考察する時、〈授受表現〉の基本的な意味機能である受益や与益の概念はポライトネス理論のポジティブ・フェイスの要素として位置付けられる。すなわち、他者に理解されたい、好かれたい、賞賛されたいというポジティブ・フェイスのプラス方向の欲求に基づいて、受益や与益の概念を言語表現の場に持ち出し、受益にあっては“ソト”から“ウチ”へと負荷を話し手に方向づけることにより、話し手が負荷を担って相手との心理的距離を縮め、また与益にあっては“ウ

チ”から“ソト”へ負荷を与えることで聞き手との心理的距離を縮めるというストラテジーとして捉えられる。話し手は受益と与益の立場、すなわち話し手の優位性あるいは劣性の立場と力関係を是認した上で、相手への心理的接近を諮ろうとするストラテジーとしてポジティブ・ポライトネスを使用しているのである。恩恵の授受による“ウチ”と“ソトの区別は、敬語における上下の関係よりは立場の交代による視点への依存性が高く、常に立場の交代する可能性がある流動的なものである。

上記のように〈授受表現〉は概念としてのポジティブ・フェイスを持ちながら、一方では、依頼のように相手のフェイスを脅かすような場にあつては、話し手は相手のフェイス侵害の度合いを軽くするために、相手を強制しない婉曲的な表現が必要である。既述のように、日本語では相手の時間的・労力の負荷を求めるネガティブ・フェイスを脅かすような依頼の場において、「～ていただきたい」「～ていただけるか」というような相手に対する話し手の負荷を認めた上で、相手からの恩恵や好意を求める表現をストラテジーとして働きかける用例が多く見受けられた。このような〈授受表現〉による依頼形式の慣例化は、〈授受表現〉の本来の意味である恩恵の授与から派生し慣例化した形式として文法化し固定化されつつある。この側面から見れば、依頼の場での〈授受表現〉は、敬語体系がその社会の規範に基づいた言語使用を行うことで相手の立場を侵さないのと同様に、相手のネガティブ・フェイスを守るためのネガティブ・ポライトネスのストラテジーの場合として捉えられる。相手の恩恵が欲しいとか相手の恩恵に与れるかどうかを尋ねることは、結局のところは相手の意志決定に関わることであり、その意味で「～ていただきたい」「～ていただけるか」という依頼表現は、相手の行為を強制せずに押し付けがましくないという意味で相手のネガティブ・フェイスを保つのである。

滝浦（2005）は、「ポライトネス」とは、「ほとんど人類学的・儀礼的な、あるいは控えめに見ても、対面的相互行為における人のふるまいについての、普遍的な枠組みである。それは伝達の効率性からの逸脱と引きかえに、距離化と脱距離化の効果による含みを伝達する。このとき、儀礼論的契機と語用論的契機がある一点で逆を向くことになる点に注意しなければならない。」（P.204）と述べた上で、「ポライトネスを実現しようとする話し手は、つねに二重の含みを操らなければならない。多かれ少なかれコード化された慣習的含みとしてのポライトネスと、個々の会話の場でそのつど創出される個別的な会話の含みとしてのポライトネスである。」（P.205）と述べている。

滝浦によれば、Brown and Levinsonのポライトネス・ストラテジーは「どれも相手の「なわばりの完全と自己決定の欲求」を指向する。」（2005, 168）と言う。Brown and Levinsonはさらにそこから「話し手が聞き手の領域を侵さないよう慎重に扱うのは（略）聞き手が話し手よりも（力が）上である場合と、話し手が聞き手に借りを負っている場合」（滝浦2005, 168）であり、後者についてのストラテジーとして「借りを負うこと、相手に借りを負わせないことを明言する」として、「このストラテジーがどの程度機能するかは、その文化が「負

い目感受的 (debt-sensitive)」(ibid., p.247) である度合いに応じて変わり、また、どのような行為がフェイス侵害度の高い行為を見なされるかも文化相対的である。ブラウン＆レヴィンソンは負い目感受性の高いケースとして日本文化に言及している」(滝浦2005, 169-170) ことを指摘している。橋元 (2001) もまた日本語では授受表現によって「[受けた恩恵への返礼義務]をも含意するような表現をとる。」(P.48) として、「授受表現の活用論」(2001) において「気配りの原則」と授受表現について、「[気配りの原則]は、授受表現の使用による以下の代替原則で実現できる。恩義強調の原則：相手が施す恩恵もしくは依頼者に生じる義理を最大限言明せよ」(P.49) と、指摘している。日本語では相手への気配りや配慮として、話し手が聞き手に借りを負っているかどうかを明言し、その明言に基づいて聞き手に借りを負わせないことで気配りや丁寧さへの配慮をするストラテジーが多く見受けられる。恩恵・恩義や借りを〈授受表現〉によって明言し、聞き手のフェイス侵害を軽減するストラテジーを用いることで聞き手の領域を保持し、Brown and Levinsonの言うネガティブ・フェイスを脅かさず、ネガティブ・フェイスに配慮するストラテジーとしてのネガティブ・ポライトネスとするのである。

〈授受表現〉の使用によって、相手との距離を置き、聞き手の「自己の領域と自己の行動の自由を守りたいという、誰もが抱く欲求」のネガティブ・フェイスを保持しながら、〈授受表現〉はまた「～てくれる」系、「～てもらう」系の使用により、話し手は、事態が聞き手の恩恵や好意によりもたらされたことを明言して、Brown and Levinsonの言う「他者からの評価と他者による受容を得たいという、誰もが抱く欲求」のポジティブ・フェイスに働きかけるストラテジーとなるものである。

「上村コーパス」における用例の中で観察されたことであるが、ある行為が他者のためになされる時、そこには負荷や借りが発生し、それを契機として恩恵・利益の授与についての方向と距離がはかられる。負荷の方向がウチからソトへと向かう時は「～てあげる」系によって相手の物理的・心理的能力を補う文法形式によって表現され、時には相手の立場を斟酌した上で「～てさしあげる」という距離を置いた表現形式がなされるものの、語用の段階では、ある場合には押し付けがましさを与えて、ポライトネス・ストラテジーから逸脱することもある。また、負荷の方向がソトからウチへと向かう時は、「～てくれる」系、「～てもらう」系によって話し手のために相手が担った負荷に対する謝礼のネガティブ・ストラテジーとして「～てくださりありがとうございます」や「～ていただきありがとうございます」の表現形式となる。本質的にフェイスを侵害する可能性が高い依頼や忠告に対しては、その実現が仮定的であり可能性が低いとみなした「もし～できましたら～てくださいますか／ていただけますか」や、相手への負荷を最小限にした「もし～てもらえたらどうかと思って言ってみただけなんです…」のようなストラテジーが〈授受表現〉の使用例として認められる。

11. 終わりに

上村コーパスの使用実態を見ると、授受表現の補助動詞において「～ていただく」の使用が全体の75.7%を占め圧倒的に多いことがわかる。「～ていただく」は依頼表現においても「～てくれる」との比較の上では98.8%の場合に使用され、文法上では同一文脈の中で置換え可能な「～てくれる（くださる）」の使用を大きく上回って用いられている。また、お礼と感謝の表現においても、「～ていただく」の使用は68.7%であるのに対して、「～てくださる」は31.3%であり、「～ていただく」の使用の多いことがわかる。なぜか「～ていただく」の使用が多いのだろうか。それについては、「～ていただく」の視点が話し手にあることから「自己同一視化」すなわち「共感度」が高く、話し手からの心理的な近さから敬意意識が低減して常体化しているためだと考えられる。すなわち「～ていただく」が敬語である意識が弱くなっており、身近な表現となっていることが理由としてあげられる。一方、「～てくださる」の方は依然として敬語であるとの意識が強いと見られているものと考えられる。背景として、現代の日本語コミュニケーションにおける配慮が上下の対人関係を意識した敬語よりは、話し手が自分を中心として恩恵の授受関係がどの方向でなされるかに重きを置いた、主として聞き手への配慮を優先してなされていることに理由があると考えられる。

また、今回の調査により、「～ていただく」と「～てくださる」の使用数を男女の使用割合別で見ると、「～ていただく」が男性の15.8%に対して女性が84.2%であり、「～てくださる」の使用の男女比は男性が0%であり女性が100%で、両者以外の授受表現の補助動詞を含む男女の使用割合は男性の15.8%に対し女性が84.2%と、授受表現自体が圧倒的に女性によって多く使用されている実態が判明した。この結果により、男性と女性の丁寧さの意識にはかなりの距離とズレがあり、現実には過度とも言えるほどに、女性の丁寧さへの意識が言語表現に反映されていることが見て取れる。日頃、コミュニケーションの難しさを実感し円滑な人間関係を作り上げることに心を砕いている女性の表現意識の反映かと思われる。

授受表現自体が圧倒的に女性によって多く使用されている実態も、丁寧さの意識と無関係ではない。「自分が借りを負うこと、相手に借りを負わせないこと」が配慮として常に意識にあり、受惠の恩義を言語表現化することが相手への距離を置くことであると同時に相手への心理的接近として機能している。女性の授受表現についての使用実態には、「距離化と脱距離化の含み」（滝村2005, 204）を操り、Brown and Levinsonが言うボライトネス・ストラテジーを駆使している現実が窺える。

日本語教育においては、授受表現のこのような使用実態から、初級での基本的な用法の習得に努めると共に、中・上級においては、実際の使用実態を念頭に置いて依頼や感謝・お礼の表現の際には「～ていただく」の用法を実用的に学習していくことが求められる。

今回の実態調査がインタビュー形式による会話データであることから、会話使用の実態調査と言っても会話の一形式であるインタビューの調査に過ぎないという指摘からは免れえ

ず、今後は異なる談話場面による多様な調査を行うことで、本稿の調査はより正確で厳密なものとなると考えられる。

注

注1) 用例の末尾のアルファベットは、インタビュー実験データの被験者の名前の頭文字を示している。

参考文献

- 井上史雄（2004）『NHK日本語なるほど塾 近ごろ気になる敬語のはなし』日本放送出版協会
- 上村隆一（1997）「データベースで調べる」『日本語学』vol.16, 明治書院
- 宇佐美まゆみ（2001）「談話のポライトネス—ポライトネスの談話理論構想—」『談話のポライトネス』国立国語研究所
- 大江三郎（1975）『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂
- 大曾美恵子（2006）「日本語コーパスと日本語教育」『日本語教育』130号, 日本語教育
- 奥津敬一郎・徐昌華（1982）「「～てもらう」とそれに対応する中国語表現—“清”を中心に—」『日本語教育』46
- 蒲谷宏・他（1998）『敬語表現』大修館書店
- 現代日本語研究会編（1997）『女性のことば・職場編』ひつじ書房
- 現代日本語研究会編（2002）『男性のことば・職場編』ひつじ書房
- 国立国語研究所（1982）『敬語教育の基本問題（下）』大蔵省印刷局
- 滝浦真人（2005）『日本の敬語論 ポライトネス理論からの再検討』大修館書店
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 橋元良明（2001）「授受表現の語用論」『言語』Vol.30, No.5, 2001, 大修館
- 原田登美（2006）「恩恵・利益を表す〈授受表現〉と〈敬意表現〉の関わり—特に「てくれる」を中心として 文法的側面と社会言語学的側面から見る—」『言語と文化』第10号, 甲南大学国際言語文化センター
- 三宅和子（2004）「言語と社会の関係2」（NHK放送研修せんたー日本語セミナーのハンドアウト）
- 山田敏弘（2004）『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院
- Brown, P and Levinson, S. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge University Press
- Coulmas, Florian (1981) '*Poison to Your Soul: Thanks and Apologies Contrastively Viewed*' In *Conversational Routine*. Ed.

〔調査資料出典〕

インタビュー形式による日本語会話データベース（上村コーパス）1998：上村隆一

OPIテスターが日本語母語話者（54人）、非母語話者（56人）計120人に行った15分の日本語OPIの文字化テキストを収録したものから、本稿では日本語母語話者（54人）を資料として使用した。